

## 「2016キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)中国」表彰式・記念講演会



平成 29 年 1 月 24 日(火)、広島市において、2016 キャンパスベンチャーグランプリ中国(以下、CVG 中国)の表彰式を開催した。CVG 中国は、中国地域の大学・高専等の学生を対象に、起業家精神を醸成し、創造性・チャレンジ精神に富んだ人材を育成することを目的として、新事業・商品のアイデアやビジネスプランを募集・表彰するもので、当連合会、日刊工業新聞社、中国地域産学官コラボレーション会議(※)などで構成する実行委員会(委員長: 荻田当連合会会長)が運営している。15 回目となる今回は、88 件(15 校)の応募があり、その中から最優秀賞など 15 件の受賞プランを表彰した。

※中国地域の産学官連携を推進する主要 88 機関による組織体。当連合会ほか 3 機関が事務局を務める。

### ◆主催者挨拶

#### 中国経済連合会

会長 荻田 知英

今年度応募いただいたプランの中には、休耕田の活用や、障害者の安全、高齢者の活用、子育て支援、食の安全など、今日の中国地域が抱える社会的課題に係わる提案も多く、学生の皆さんの問題意識の高さとポテンシャルの高さを改めて認識した。

昨年は、オバマ米大統領の広島訪問など、広島が世界に向けて大きく発信され、中国地域も大いに盛り上がったが、米大統領選挙の結果を受け、グローバル化を推進してきた地域産業への影響が危惧されるなど、経済動向の先行きに不透明感が増している。わが国経済を活性化するには、地域産業の活性化と持続的発展が必須であり、このためには、逆境に立ち向かう優秀な人材を育て確保していく必要がある。今回受賞された方はもちろん、惜しくも賞を逃した皆さんも、引き続き粘



り強くチャレンジし、社会に貢献されることを期待する。

### ◆表彰

#### ○最優秀賞

#### 【テクノロジー部門】

「手書き文字の矯正・  
誤字防止デバイス  
-誰でも美文字アシスト-」  
松江工業高等専門学校  
伊勢 麻奈美さん他



#### (プラン概要)

近年、書類のほとんどが電子データ化されてきており、PC上で入力し、電子メールに送付もしくは印刷して提出すればよいものがほとんどである。しかし、就職活動で用いる履歴書やエントリーシートなど、今でも手書きというアナログな手法をとったほうが望ましい書類も存在する。

「誰でも美文字アシスト」は、紙面上に文字を映し出し手書きをサポートしてくれるデバイス。まず記載する履歴書やエントリーシートをスキ

ャナーでスキャン、もしくはスマートフォンなどを用いて撮影することで読み込み、テンプレートを作成する。次に実際に履歴書やエントリーシートに記入する内容をPCやスマートフォン上で入力することで手本データが完成。この手本データをデバイスへ送信すると、デバイスに付属している小型プロジェクタによって実際に記入する紙へと映し出すことができる。後は投影されている見本データを目安に、ユーザーはなぞるように記入していただくだけである。どうしても手書きでなければならない大事な書類、手紙などにも有効な方法である。

#### 【ビジネス部門】

「小中高生対象の  
プログラミングスクール  
Tech Chance!」  
広島大学大学院  
北村 拓也さん



(プラン概要)

広島のICT力向上を目指し、広島初の小中高生を対象としたプログラミング学習スクール「Tech Chance!」を2016年5月に創設し、同年6月から実際に授業を開始している。

文部科学省は2020年、小学生に「プログラミング教育」を必修化することを発表した。現代社会において、ITはなくてはならない必須のツールとなっているが、それを裏で支えているIT技術者の不足、さらにそれを教える人材も大幅に不足している。日本の公教育では他国に後れをとっているのが現状である。

「Tech Chance!」で働くスタッフにはプログラミング技術の研修の他に、子供たちへの教え方の研修も行っている。さらに小中高生に合わせた内容のオリジナル教材を作成し、講義を行っている。また、広島のさまざまな企業とコラボして無料のワークショップを開催するなどのネットワークづくりもすすめている。

プログラミングは、自分の想像を実現する自己実現のための素晴らしい技術、武器だとの思いがある。子供たちがプログラミング技術を身につけ、自分の生きたい人生を生きられることを目指して「Tech Chance!」を世界中に広げていきたいと考えている。

#### ○ 優秀賞

##### 【テクノロジー部門】

「VRを用いたプレゼンテーション  
練習支援ツールの開発」  
広島大学大学院 川嶋 克明さん他

(プラン概要)

最近、大学生、社会人を問わずプレゼンテーションをする機会が格段に増えた。人前で話すことの経験が不足している場合、緊張によりうまく話せなくなることがあるが、プレゼンテーションに関する指導を受けたり、人前で発表を練習したりする機会は少ない。また、事前に大勢の人を集めて発表練習をし、発表内容についてフィードバックをもらうことは困難。そこでVR (Virtual Reality : 仮想現実) を用いてプレゼンテーションの練習をすることができるアプリケーションを提案する。

このアプリケーションでは、リアルタイムのオンライン通信により、実際に人に集まってもらわずにプレゼンテーションを聞いてもらうことができる。また、VR技術を組み合わせることで、ヘッドマウントディスプレイ着用時には実際にその場にいるかのような臨場感を味わうことができる。

##### 【テクノロジー部門】

「★さめぼ★-LD向け規則補助システム-」  
広島商船高等専門学校 中川 麻美さん他

(プラン概要)

記憶補助システム「★さめぼ★」は、LD (Learning Disabilities : 学習障害) 向けのメモ機能を搭載した、スマートフォンやタブレット用の記憶補助システム。

LDの方は、主に記憶することが苦手で、約束を守れなかったり、人の名前を思い出すことができなかったりすることが多々あり、人間関係の形成に苦手意識を持ってしまうケースもある。また作文や文字を書くことが難しく、メモを自分で書くことに抵抗があるという。紙にペンで文字を書こうとしても、文字の書き方がわからないケースもある。

同システムではタブレットやスマートフォンなどのキーボードやフリック入力を利用し、5W

1 Hに分けた項目への簡単な入力を行うメモ機能を搭載、これをもとに自分の意思でメモをして実行する生活習慣を身につけてもらう。さらに家族などがメモを共有しサポートに役立ててもらうこともできる。

#### 【ビジネス部門】

「子ども連れ専用コミュニティカフェ ～ひだまり～」

安田女子大学 中村 美波さん他

#### (プラン概要)

現在、市中にあるカフェは、子どもの声など、周りの顧客に気を使わなければならないため、子育て中の女性や家族にとって行きづらい場所になっている。そのような方々をターゲットに、託児所を設置した子ども連れ専用のカフェをつくる。

コミュニティーカフェ「ひだまり」には保育士が在勤する託児所を設置し、母親一人の場合も、子どもを預けて買い物を楽しむことができる。また子育てに悩んでいる母親が、保育士にいつでも好きな時間に相談できる環境をつくりたい。最近、広島県においても男性が育児休暇を取得する傾向が見られるが、このような男性の利用も促したい。

内装は全面マットレスにし、家具も角を無くして子どもがけがをしないように配慮。また託児所は母親がどの席にいても子どもの姿が見える設計にしているので、安心して子どもを預けられる。

#### ○特別賞

・「掌紋認証を用いた管理システム」

岡山大学大学院 谷川 友崇さん他

・「農業を通じての地域交流と資源有効化」

広島大学大学院

クレッツファー トーマスさん

#### ○奨励賞

・「保育シェアリング

～保育で地域のつながりを～」

広島工業大学 木野本 敦士さん他

・「選択式スポーツ観戦システム」

岡山大学大学院 新田 侑亮さん他

・「DOCALL

～学内居場所検索アプリ(企業も可)～

安田女子大学 山口 愛美さん他

・「高校生がアパレルから地方を活性化させ、

日本のファッションを創る」

呉工業高等専門学校 伊佐 豊さん

#### ○佳作

・「可変式点字ブロック」

岡山大学大学院 守時 直さん他

・「MEMS 技術を用いた

虫歯検知機能付歯ブラシの提案」

広島市立大学大学院 沖原 千明さん他

・「メモ自動生成電話機」

岡山大学大学院 佐田野 正崇さん他

・「ワンワンカフェ」

安田女子大学 黒田 詩希さん他

#### ◆審査委員長講評

島根県産業技術センター

所長 吉野 勝美 氏



応募提案された課題はいずれも若者が日常生活、社会体験から敏感に感じ取ったもの

など多様な事柄を対象に、問題を解決すべく、新しいコンセプトを盛り込んでベンチャー企業を立ち上げようというものであった。

テクノロジー部門の最優秀賞は、字を書く機会が減ってきている若者が共通して感じているであろう、個性もあってバランスが良い美しい文字が書けないという弱点に着眼し、ユニークな発想を元にこの課題の解決方法を提案するものであり、審査委員自らもこれが実現すれば活用したいと思うようなものであった。また、ビジネス部門の最優秀賞は、既にこのプランで小さいながらベンチャー企業を立ち上げ有効性を検証済みであり、様々な考え方、仕組み、仕掛けを加え、さらに大きく展開しようとするもので、事業計画も確実な発展が期待できるものであった。これら2つのプランは中国地区代表として全国大会に進むこととなるが、さらに内容を検討すると共にプランを最高の形で表現できるよう、さらに努力をし

て欲しい。

今回残念ながら選から外れた方、あるいはこれまで挑戦してこなかった方々も、新しい種、芽を見出して、構想を進め来年のグランプリに向けて活動を始めると共に、周囲の方にも声をかけてほしい。

(担当：三上)